

わが心の自叙伝

菅原洋一

.....▷23

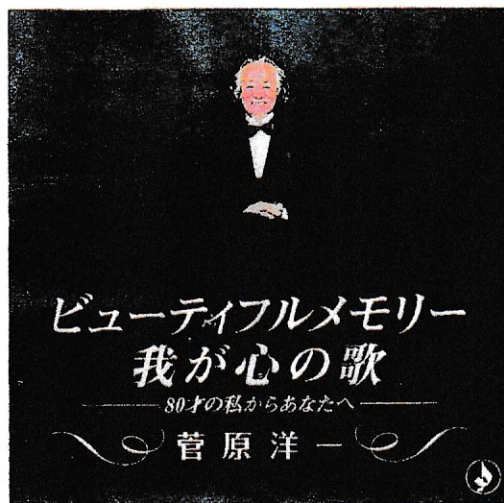
私の77歳、喜寿のお祝いにと息子英介がプレゼントしてくれた曲に詞を付け、歌手協会レーベルの第1号曲として発売しようという話になった。私は旧友のなかにし礼に依頼した。

なかにしからの手紙には、私との長い仲、自分が作詞家として生きてこられたスタートは私のおかげであるというような話、そして息子の作曲家としてのスタートを飾るなら、お祝いのために…としたためられていた。その作品こそが「ビューティフルメモリー」だ。まさに年齢を重ねた男性の美しき人生の思い出が書き記された作品。なかにしとレコーディングで久々に会ったが、結局はこれが彼のコンピの遺作になってしまった。

この歌は発売早々からヒットチャートに顔を出し、好調な滑

80歳でアルバム発売

「ビューティフルメモリー
我が心の歌～80才の私からあなたへ～」のジャケット



り出したこともあり、80歳を目前にしてアルバムを発売することになった。生涯最後のアルバムになるかもしれないという気持ちもあった。「80才の私からあなたへ」という副題で全18曲、私の好きな歌を吹き込んだのだ。

「童謡の謎」や「神社の謎」

の作家で歌手協会理事長の合田道人が、アルバムの解説にこう記してくれた。「しかしこれほどまでに歌の力量が落ちない歌手がいるものだろうか？ 反対に向上している歌手を私は誰ひとりとして知らない。『歌の魔術師』とは言い得て妙。これからまだまだ期待できるそんな大

ベテランだ。だから80才はまだまだ通過点ではない」

「ビューティフルメモリー」の作曲だけでなく、英介とは「アメイジング・グレイス」を一緒に歌い、娘の歌織とも懐かしいタンゴの「小さな喫茶店」を歌った。「知りたくないの」の英語バージョンや「紅白」で歌っておきながらレコーディングしていなかった「ケ・セラ」「ラ・バンバ」などもレコーディングした。私にとつてかけがえのないアルバムの誕生だった。

80歳を過ぎて半年、「80才の私からあなたへ」のパート2のアルバムが完成した。実は私の80歳の誕生日翌日、私にとつての恩人ともいえるべき、タンゴの女王、藤沢風子さんが「く」なつた。この連載でも以前書いたが、もし藤沢さんや藤沢さんのご主人の早川真平さんがいなければ、私の歌手人生は成り立たなかったかもしれない。

「ビューティフルメモリー」は英介がタンゴのリズムにのせて作ってくれたこともあり、この歌をメインに、私の原点であるタンゴだけを集めたアルバムを作ったのである。これで終符のつもりだった。

しかし、翌年私は続く「81才の私からあなたへ」をリリースすることになるのだ。それはあまりにも悲しい出来事があったからだ。その悲しみを乗り越えるため、私は歌ったのである。

(すがわら・よういち||歌手)

旧友と再会、続編も完成